



[祈りと信仰のまち京都]

歴 116 (R01)

西ノ京円町交差点の北東、下立売通が紙屋川を渡る南東にある臨済宗妙心寺派の寺院で、享保13年（1718）に大愚宗築禅師を開山とし、万海滋源和尚が創建しました。その後、3度の天災地変に遭い、その都度復興されました。

第10代伊山和尚は、起き上がり小法師をもって禅の大衆化、生活化を図り、昭和20年には起き上がり達磨堂を建てたことから、現在では通称「だるま寺」として広く知られています。達磨堂には1万體以上のだるまが収められ、2月の節分会と11月1日の達磨忌には多くの参詣者で賑わいます。

中央の門を入った右手に庫裏、その南に衆聖堂、本堂と続き、本堂の南に庭が広がり、衆聖堂の西側には茶室が建っています。

本堂は享保15年（1730）の建築で、方丈型、入母屋造、本瓦葺、支柱内奥の部屋を内陣とし、前面に吹放しの広縁を設け、その東端に玄関が付く、典型的な方丈建築です。

昭和11年に建てられた弗云庵（茶室）は、先代からの信徒や表千家の茶人の自邸などにあった建物を昭和55年に移築したもので、入母屋造、妻入、瓦葺一部銅板葺きの平屋建てです。内部は、床柱に皮付き赤松、相手柱には桧を使い、角竹の飾り梁、杉丸太の垂木あらかわし、葦天井に煤竹押さえ縁が選ばれています。



庭から本堂の眺め



庫裏玄関内部



〒602-8366 京都市上京区西大路通御前西入ル行衛町457

電話番号 075-841-7878

アクセス JR山陰本線「円町駅」徒歩5分